

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 2 5	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Liver enzymes compared with alcohol consumption in predicting the risk of type 2 diabetes: the Kansai Healthcare Study. 2 型糖尿病のリスクの予測における肝臓中酵素とアルコール摂取量の比較 関西ヘルスケア研究	
執筆者	
Sato KK, Hayashi T, Nakamura Y, Harita N, Yoneda T, Endo G, Kambe H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Diabetes Care. 2008 Jun;31(6):1230-6.	
キーワード	
2 型糖尿病、肝臓中酵素、アルコール摂取量	
要 旨 目的： 適度なアルコール消費が 2 型糖尿病のリスクを減少させ、肝臓中の酵素の上昇が 2 型糖尿病のリスクを増加させることが報告されてきた。2 型糖尿病の予測因子としてのアルコール消費量や肝臓中の酵素を比較することの重要性については確認されていない。	
研究デザインと方法： エントリ時に 2 型糖尿病がない 40-55 歳の日本人男性 8,576 人を対象とした。空腹時の血漿グルコースのレベルが 126 mg/dl 以上もしくは経口の低血糖療法もしくはインシュリン療法をしているものを 2 型糖尿病とした。	
結果： 4 年の追跡期間中 878 人のケースを同定した。多変量モデルにおいて、適量のアルコール消費 (16.4-42.6g エタノール/日) は 2 型糖尿病のリスクを減少させ、 γ -glutamyltransferase (GGT) およびアラニン・アミノトランスフェラーゼ (ALT) の高値はリスクを増加させた。アルコール消費量と肝臓中酵素を同時に解析すると、適度な飲酒者で GGT の最も低い 3 分位で 2 型糖尿病のリスクが最も低かった。それらと比較すると、非飲酒者で GGT の最も高いグループで 2 型糖尿病のリスクが高かった (オッズ比 3.18 95%CI 1.75-5.76)。全ての GGT のレベルで適度もしくは多量の飲酒者 (42.7g エタノール/日以上) は、非飲酒者より 2 型糖尿病のリスクが小さかった。ALT と一日当たりのアルコール消費量の 2 型糖尿病に対するリスクは GGT のそれとほとんど一緒であった。	
結論： GGT、ALT および一日当たりのアルコール消費量は独立に 2 型糖尿病のリスクと関連していた。GGT または ALT が高水準で非飲酒者では 2 型糖尿病のリスクが高かった。	